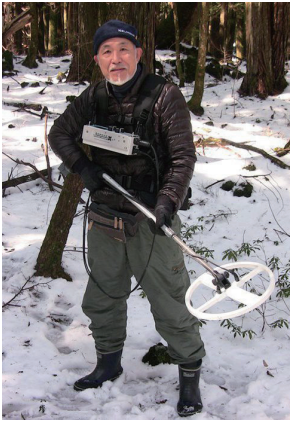
ポチがなく



トレジャーハンター　八重野 充弘

もくじ

はじめに
1 天草切支丹の秘宝（熊本県）
2 日本のエル・ドラド、上州永井宿（群馬県）
3 秘文書が導く天の七宝坂の埋宝（千葉県）
4 悠久の歴史ロマン、結城家の黄金（茨城県・栃木県）
5 山奥の金山跡に隠された徳川幕府御用金（群馬県）
6 旧日本軍が北陸山中に封じ込めた巨宝（福井県）
7 海賊キッドの宝が眠る日本の宝島（鹿児島県）
おわりに

はじめに

一九七八（昭和五十三）年の秋、日本経済新聞の「私のライフワーク」というコラムに、四回連載のエッセイを寄稿したことがある。求められるままに、たまたま天草で始めた財宝探しの顛末を、ぼくなりの方法論を交えながら述べたのだが、まだ三十一歳だったし、発掘調査はそろそろ行き詰まっていたから、正直、これがライフワークになるなんて、当時は思いもしなかった。

ところが、いいとこ四年か五年、ターゲットも天草四郎の秘宝だけで終わるはずだったぼくの宝探しは、ずる

ずると四十八年も続くことになってしまった。しかも、足を運んだ土地は東北から九州まで四十カ所以上、実際に発掘まで行ったところも十六カ所にのぼる。これほどしぶとくやっていることを知ると、たいていの人は、

「これまでどんなものが見つかりましたか？」

と聞いてくる。

「まだ何ひとつ」

と答えると、十人中八、九人は笑うかあきれるかだ。まあ、自分が逆の立場だったら、同じ反応をすることだろう。なかには、

「諦めずに、そんなに長く続けられる原動力はなんです

か？」

と突っ込んでくる人もいる。それに対して以前はうまく答えられなかったのだが、いまなら自信をもってこう言う。

「おもしろすぎてやめられないからですよ」

ただし、それだけでは相手が拍子抜けしてしまうので、おもしろさの中身を説明する必要がある。本書を著した目的はまさにそれで、ぼくが本気で、全身全霊を打ち込んで取り組んだ七件の調査について、話を知ったきっかけから、本気にならざるを得なかった根拠、どのようなプロセスを踏んでチャレンジしたか、できるだけ詳しく

書いたつもりだ。

経験のない人は、トレジャーハンティングの方法というと、パワーショベルでやみくもに掘るイメージしかわかないようだが、掘るに至るまでのプロセスが何段階もある。そして、七つのターゲットがあれば、七通りの探索方法を考えなければならない。

実際に、本書でご紹介するのは、それぞれ方法がかなりちがっている。どんな道具を使って、どんな方法で探すかを考えるのも、楽しみのひとつである。

長く続けることができた理由はほかにもある。それは破綻しなかったことだ。この世界には破綻者が実に多い。

抜き差しならない状況に陥った人を何人も見てきた。原因はとりもなおさず、本気になりすぎて周りが見えなくなってしまうことである。

それには似たようなパターンがあって、宝探しに人生をかける人は、まず仕事を辞め収入をなくす。仕事以外の収入や貯えがあっても、発掘に分不相応のカネをつぎ込んでスッカラカンになり、あげくに借金をして踏み倒す。結果、社会的信用を失う。次に家族から見放される。そして最後は何も成果を上げることができないまま、ひとり山中にこもって食うや食わずで生涯を終えるのだ。

二十年ぐらい持ちこたえた人はいるが、四十八年も続

けられた人はほかに知らない。ぼくとしては、
「四十八年もやっているのに、まだ何も見つけられないのか」
となじられるより、
「よくそんなに長く続けることができましたね」
と褒めてほしいくらいだ。
とはいっても、もちろんこのままで終わるつもりはない。ここ三年あまり、コロナ禍の影響もあって、計画がすっかり狂わされてしまったが、決着の時はいよいよ間近に迫っている。